

コロナ禍と地域医療のこれから ～国と地方は何をすべきか～

コロナ禍の医療提供体制は、一時期壊滅的な状況にありました。救急車を呼んでも入院する病院が見つからず、結果として自宅待機を余儀なくされ、命を落とす患者もでました。世界で進んでいると言われた日本の医療もパンデミックのような危機的状況では脆弱な姿を露呈しました。

その中で、公立病院の役割の大切さが見直されました。保健所も地域医療の中で同様に重要な位置づけがされることが再認識されました。しかし、政府の「経済財政諮問会議」は医療費削減を重視し、地域医療を担う公立病院は再編、縮小が政権の方針とし、再編の病院名まで挙げました。保健所も過去に縮小の対象になり、その結果、今回の体制崩壊につながりました。医療従事者の頑張りだけで

はまかないきれない、医療提供体制の現状の中で、政府、地方自治体は何をすべきかを今回の講演テーマに設定しました。

今回の講演会は、コロナ禍にあって地域医療の充実に努めるその方向性について元ジャーナリストでもあり、その分野を主要な研究テーマにしている三原岳先生に講演をお願いすることになりました。先生は地域医療について様々な論文執筆、各地での講演を精力的に展開しております。コロナ禍の時代をどう生きるのか、関係する皆様のご参加をおまちしています。

なお、講演にあたりましては、ガイドライン (https://chiba-jichiken.net/img/new_corona1.pdf) に基づき、新型コロナウイルス感染症対策を実施します。参加者の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

自治研センター 講演会のご案内

- 日時：2022年3月5日（土）
14時30分～16時30分
- 会場：千葉県教育会館本館 203 会議室
千葉市中央区中央 4-12-12

＜講演 講師紹介＞

三原 岳 氏
(みはら たかし)



＜現職＞ ニッセイ基礎研究所主任研究員
＜略歴＞ 岡山県出身。早大政経卒。時事通信社記者、東京財団研究員を経て、2017年10月から現職。関心事は医療・介護政策。
書籍・論文などに『地域医療は再生するか』（医薬経済社）、「日本の医療保険における保険料賦課の現状と課題」「介護報酬複雑化の過程と問題点」（いずれも『社会政策』）。老健事業「総合事業の推進に係る検討委員会」委員、日本医療政策機構「認知症条例比較研究会」メンバーを務める。

★ お申込は自治研センターへ 電話043-225-0020
FAX 043-225-0021
☆2月18日（金）までにお申し込み下さい

- 主催：千葉県地方自治研究センター
- 共催：自治労千葉県本部
- 後援：連 合 千 葉